

# 横井 昌明 議員

## 識市会

### 本市のPRにテレビメディアを利用してはどうか

問

日本は、2010年から本格的な人口減少社会に入りました。

既に地方では人口減少が始まっているが、25年後から東京を含め全ての都道府県で人口減少が始まる。さらに日本の問題は、人口の減少と同時に発生する高齢者人口の急速な増加である。

私は、このまちに若い世代の定着と外部からの若い世代の移住が必要と考える。

(1) 本市がアピールすることは以下のとおり多くある。

- ① 保育施設の充実したまち。
- ② 中学校まで医療費が無料のまち。
- ③ 自然が多いまち。
- ④ 名古屋駅まで15分で行けるまち。

通したとき、東京まで1時間で行けるまち。⑤文化・体育施設の充実したまち。

今後、弥富に若い世代が住んでいただくには、弥富のPRを行うべきである。若者、子育て世帯が住みたいまちとしてどのようにPRを行ったらよいか。

例えば、テレビメディアを利用すべきであると考えますが、どうか。

(2) 現在、本市の観光協会が、私は第三セクターのような単独な組織で行い、観光の企画を立て、本市のPRを行うような体制をとるべきと考える。これも本市の大きなPR活動になると思うが、どうか。

積極的に情報提供を行い、取り上げてもらえるよう努める

答 総務部長

(1) テレビメディアの利用は、まちのPRには大変よいものであると考える。

これまでも本市をアピールできるような放送企画などを要望してきた。

地域の話題やイベントなど、積極的に各メディアへ情報提供を行い、テレビメディアで取り上げていただくよう努めていく。

答 市長

(2) 観光産業は自治体間競争になってくると考える。市が担当することに限界を感じることもあり、新年度の役員会で新しい体制づくりを考えていければと思う。観光事業に対して知識のある方やネットワークのある方にぜひ本市の観光協会の会長になっていただき、実施すべきと考える。

### 集中豪雨対策に田んぼダムを実施してはどうか

問

今年も異常気象による集中豪雨が各地で発生した。

安城市が雨水マスタープランを策定し、水田貯留の一環として、雨を流すからためる、浸透させると発想を転換し、大雨の際には5センチ余分にためることを目指している。その方法は、田んぼから排水路へ流れ込む水をせきとめる板を使ってコントロールしている。

都市計画、防災上ため池としての田んぼは重要である。日本各地で田んぼダムを実施し、集中豪雨から冠水を防げた例もあり、本市も田んぼダムを実施すべきと考えるが、どうか。

### 先進地の取り組み事例を参考にしたい

答 農政課長

田んぼダムの導入は、農家の方による適切な維持管理が欠かせないと考える。農家の方に積極的に協力していただく必要があるもので、先進地の取り組み事例を参考にさせていただきたい。

### 天井落下防止対策が必要な施設数及び今後の対処は?

問

今年から学校施設の体育

館の天井落下防止工事が施行されている。天井落下の可能性が高い施設は、体育施設を含め公民館施設も多くあり、避難所を兼ねた施設もある。学校体育館のようないかなる施設が、必要な施設数はどのくらいか。

また、今後はどのように対処されるのか。

### 財政状況 国の補助金・起債対象の適用額を見極めながら検討する

答 教育部長

学校以外の施設は、中央公民館ホール、総合体育館アリーナ、南部コミュニティセンター多目的ホール及びロビー、白鳥コミュニティセンター多目的ホール及びロビー、十四山体育館、十四山公民館講堂、市立武道場、十四山スポーツセンター第1、第2アリーナ、総合福祉センター多目的ホール及びロビー、市民ホール、環境センター多目的ホールが主な対象である。

今後、市の財政状況、国の補助金や起債対象の適用動向を見極めながら、検討していきたい。